

本年度の重点目標	『クリティカルシンキングの育成』『全ての教育活動をビジネスの視点で取り組む』『感動あふれる学校づくりの推進』 <ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上と確かな学力の定着 ・望ましい学習習慣、生活習慣の確立 ・帰属意識と自己有用感の涵養 ・キャリア教育の一層の充実 ・教職員が健康的に教育活動に従事できる環境の整備 		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項(達成基準を含む)
P T A活動 (総務部)	防災・減災目線での備品管理	各分掌と情報を共有し、備品の活用方法の模索と適切な廃棄を進める。	廃棄時期については事務室と共に進める。 A：模索と適切な廃棄が80%以上できた B：模索と適切な廃棄が70%以上できた C：模索と適切な廃棄が50%以上できた D：模索と適切な廃棄が50%未満
学習指導 (教務部)	観点別評価による学習評価の充実	3観点の資質・能力を図るための評価資料の設定を推進する。	全教科、評価資料の充実を図る。 A：資料の作成運用振り返り、改善ができた B：資料の作成運用振り返りができた C：資料の作成運用ができた D：資料の作成に留まった
生徒指導 (生徒指導部)	交通事故の防止	登校時に街頭や校門付近に立ち、自転車乗車中のイヤホンや並進走行する生徒へ注意喚起する。	自転車マナー守らせる。 A：適切に利用できた生徒が80%以上 B：適切に利用できた生徒が75%以上 C：適切に利用できた生徒が50%以上 D：適切に利用できた生徒が50%未満
生徒会活動 (生徒会部)	生徒主体の生徒会活動の構築	生徒会執行部を中心として生徒の意見を生かしながら、各種行事の企画・改善を図る。	アンケート等を活用し、生徒の意見を集約する。 A：80%の行事が生徒主体で企画・改善できた B：65%の行事が生徒主体で企画・改善できた C：50%の行事が生徒主体で企画・改善できた D：35%の行事が生徒主体で企画・改善できた
教育相談 (教育相談部)	問題を抱える生徒の早期発見と個々の生徒への適切なサポートの実施	教職員の連携と協力体制を構築する。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの効果的活用と外部機関等との連携を強化する。	教育相談に関する様々な情報を発信し、正確な状況把握と分析に努める。 A：生徒自らが教員へ相談し、適格な対応ができた B：正確な生徒情報を把握し、サポートできた C：生徒情報のある程度把握し、傾聴できた D：上記A～Cが実践できなかった
保健・清掃指導 (保健厚生部)	健康的な生徒の育成と、感染症予防の観点に立つ快適な環境づくり	状況に応じた感染症予防のための環境整備、広報活動を実施する。	感染症に関する情報を常に校内で共有する。 A：生徒の実践的な行動が80%達成できた B：生徒の実践的な行動が60%達成できた C：生徒の実践的な行動が40%達成できた D：生徒の実践的な行動が20%達成できた
進路指導 (進路指導部)	キャリア教育の充実と主体的な進路実現に取り組むことができる環境づくり	外部講師を積極的に活用する。進路情報を積極的に提供する。	各学年と連携し、外部講師の積極的な活用を図る。 A：外部講師の活用が100% B：外部講師の活用が75%以上 C：外部講師の活用が50%以上 D：外部講師の活用が50%未満
図書館活動 (図書館部)	生徒の主体的な読書活動と図書館利用の促進	授業における図書館利用を促進する。図書選定にあたり、多くの生徒からの希望を集約する。	生徒への貸出冊数を増やす。 A：生徒への貸出冊数が前年度比110%以上 B：生徒への貸出冊数が前年度比100%以上 C：生徒への貸出冊数が前年度比70%以上 D：生徒への貸出冊数が前年度比50%未満
情報管理・情報発信 (教育情報部)	校務支援システムの運用促進 (School Engine)	校務支援システムのグループ権限を検討し、各分掌で管理運用できるようにサポートする。	校務支援システムを各分掌で管理運用する。 A：各分掌での管理運用が100% B：各分掌での管理運用が75%以上 C：各分掌での管理運用が50%以上 D：各分掌での管理運用が50%未満

商業教育 (商業科)	新しい学習評価に対応できる評価方法の実践	新学習指導要領に基づき3年次科目の年間学習指導計画及び評価規準を作成し試行を検討する。	評価規準を作成し試行検討する。 A：評価規準を試行検討することができた B：評価規準を試行することができた C：評価規準の作成に留まった D：評価規準の作成ができなかった
総合ビジネス科	教科商業の学びを生徒が地域社会に生かすことができる取組の推進	授業にて地域社会との協働事業を設定できるように学科主任と授業担当者が連携する。	地域社会との連携授業を企画・創造する。 A：年間を通して実施できた B：学期単位で実施できた C：講話のみに留まった D：実施できなかった
情報処理科	情報活用能力を備えビジネスで活用できる人材の育成	ICT環境の効果的な活用と地域と連携した実践的な授業に取り組む。	実践的な授業を行う。 A：90%以上の生徒が実践的な授業に取り組んだ B：70%以上の生徒が実践的な授業に取り組んだ C：50%以上の生徒が実践的な授業に取り組んだ D：実施できなかった
国際ビジネス科	ビジネスのグローバル化で必要とされる外国語及び経済の学力の定着	キャリアを意識し自信をもたせるための高度な資格取得の挑戦をさせる。	高度な資格取得に積極的に取り組む。 A：取り組んだ生徒が70%以上 B：取り組んだ生徒が50%以上 C：取り組んだ生徒が30%以上 D：取り組んだ生徒が30%未満
経理科	簿記会計の役割を理解し、その能力を活用できる人材の育成	自信を持って簿記会計の能力を活用できると生徒が答えられるように、検定取得を促す。	アンケートを実施し、生徒の考えを集約する。 A：自信があると答えた生徒が70%以上 B：自信があると答えた生徒が50%以上 C：自信があると答えた生徒が30%以上 D：自信があると答えた生徒が30%未満
第1学年 (1年学年会)	周囲への貢献意欲や感謝する心の育成	学校の諸活動を通して、クラスの仲間と協力して積極的に行事に取り組めるよう働きかけを行う。	目標設定し、その実現に向けて主体的に取り組む。 A：取り組んでいる生徒が80%以上 B：取り組んでいる生徒が60%以上 C：取り組んでいる生徒が40%以上 D：取り組んでいる生徒が40%未満
第2学年 (2年学年会)	社会人基礎力を備えた生徒の育成	修学旅行や学校行事を通して「考え抜く力」「チームで働く力」を身に付ける機会を与え、主体的に取り組ませる。	自ら課題を設定して主体的に取り組む。 A：取り組んでいる生徒が80%以上 B：取り組んでいる生徒が60%以上 C：取り組んでいる生徒が40%以上 D：取り組んでいる生徒が40%未満
第3学年 (3年学年会)	進路実現や卒業後を見据え、自己啓発に励む生徒の育成	進路実現に向けて、自分に何が必要で、何が足りないのかを自己分析させ自己啓発を図るように促す。	自発的に自己啓発に取り組む。 A：取り組んでいる生徒が80%以上 B：取り組んでいる生徒が60%以上 C：取り組んでいる生徒が40%以上 D：取り組んでいる生徒が40%未満
いじめ防止対策の推進	学校いじめ防止基本方針に基づいた、いじめ防止に係る取組の充実	アンケート調査等を利用していじめの早期発見をする。いじめの発見・通報を受けたら「いじめ防止・対策委員会」にて組織的に対応する。	いじめの早期発見等に全職員で取り組む。 A：いじめの重大事態が0件 B：いじめの重大事態が1件以内 C：いじめの重大事態が2件以内 D：いじめの重大事態が3件以上
勤務時間の適正な管理	長時間労働による健康障害の防止	1か月の時間外労働が80時間を超える教職員に対して、そのつど面接指導の希望の有無について確認を行い、教職員の健康障害防止に努める。	公務等を削減して時間外労働時間を減らす。 A：時間外労働80時間以上が0名 B：時間外労働80時間以上が3名以内 C：時間外労働80時間以上が5名以内 D：時間外労働80時間以上が6名以上